

(2) 主要面談者リスト

ア. 大韓民国政府科学技術処

国際協力局長 陳海述 (Mr. Hai Sool CHIN)

イ. 大韓民国政府保健社会部

医政局長 柳元夏 (Dr. Won Ha YOO)

( ミニッツ署名者 )

ウ. 医療法人聖心医療財団

理事長 尹德善 (Dr. Duk Sun YOON)

エ. 翰林大学校

医務副学長兼医療院長 尹大元 (Dr. Bai Won YOON)

( ミニッツ署名者、尹理事長の子息 )

オ. 韓国老人保健医療センター

所長 朱軫淳 (Dr. Jin Soon JU)

( 本プロジェクトの運営責任者 )

カ. 江東聖心病院

院長 裴洙東 (Dr. Soo Tong PAI)

キ. 漢江聖心病院

院長 李鍾注 (Dr. Chong Chu LEE)

ク. 江南聖心病院

院長 宣徳在 (Dr. Duk Chae SUN)

ケ. 東山聖心病院

院長 崔炳條 (Dr. Byung Jo CHOI)

コ. 翰林大学校

総長 玄勝鍾 (Dr. Soong Jong HYUM)

サ. 春川聖心病院

院長 崔昶植 (Dr. Chung Sig CHOI)

シ. 財団法人韓国農村衛生院

理事長 金庚湜 (Dr. Kyong Sik KIM)

ス. 開井病院

院長 崔春鎬 (Dr. Choon Ho CHOI)

セ. 在大韓民国日本大使館

下荒地修二参事官

小河内敏朗一等書記官

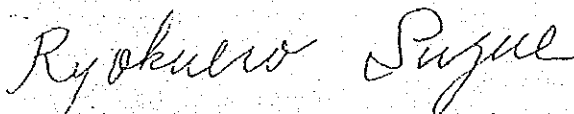
(3) Minutes of Discussions

MINUTES OF DISCUSSIONS  
BETWEEN THE JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF KOREA  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE KOREA GERONTOLOGY CENTER PROJECT

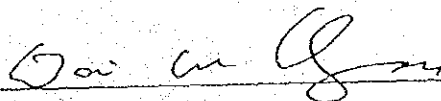
The Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Ryokuero Suzue, Director, National Institute of Nutrition, Ministry of Health and Welfare of Japan visited the Republic of Korea from July 17th to 26th, 1989 for the purpose of making a study of the request for technical cooperation for the Korea Gerontology Center Project (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Republic of Korea, the Team had a series of discussions and exchanged views with the Korean authorities concerned, and as a result of those discussions, both sides agreed to record the essential matters referred to in the document attached hereto.

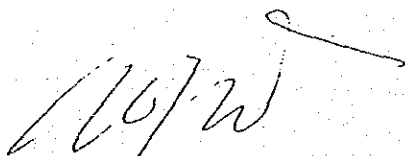
Seoul, July 25, 1989



Dr. Ryokuero Suzue  
Leader of the Japanese Preliminary  
Survey Team  
Japan International Cooperation  
Agency (JICA)  
Japan



Dr. Dai Won Yoon  
Director  
Medical Center  
Sacred Heart Medical Foundation  
Republic of Korea



Dr. Won Ha Yoo  
Director-General  
Bureau of Medical Affairs  
Ministry of Health and Social Affairs  
Republic of Korea

## ATTACHED DOCUMENT

### 1. Objectives of the Project

The Project aims at 3 main points as follows:

- 1) Upgrading the techniques of prevention, diagnosis and treatment of diseases of the aged
- 2) Technical development and comprehensive scientific study in gerontology
- 3) Education and training of medical specialists in gerontology

### 2. Name of the Project

Korea Gerontology Center Project

### 3. Implementation of the Project

Japanese Technical Cooperation under the Project will be implemented through the dispatch of Japanese experts, acceptance of Korean personnel for training in Japan, and provision of equipment.

### 4. Content of technical cooperation

Technical transfer regarding the matters mentioned below will be carried out under the Project.

- 1) Clinical Medicine
- 2) Research
- 3) Rehabilitation
- 4) Nursing

### 5. Term of the Project

The duration of the technical cooperation under the project is expected to be 5 years from the appropriate time in 1990, on condition that the Korean side finishes the construction of the building for the Project.

6. Measures to be taken by the Korean side before the Record of Discussion for the Project is signed by both sides:

- 1) To finish the construction of the building for the Project
- 2) To appoint staffs in charge of the Project
- 3) To make necessary arrangement to secure the budget for implementing the Project.

7. Responsible organization of the Korean side for preparation and implementation of the Project:

- 1) Ministry of Health and Social Affairs will take overall responsibility for implementation of the Project.
- 2) The director of the Korea Gerontology Center, as the head of the Project, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project.

8. Coordinating Committee

A coordinating committee for the smooth implementation of the Project is expected to be established at the start of the Project according to the following composition:

1) Chairman : Director-General, Bureau of Medical Affairs, Ministry of Health and Social Affairs

2) Member: Korean side

-The Chairman of the Board of Directors, Sacred Heart Medical Foundation

-Director, Bilateral Research Cooperation Div.  
Ministry of Science & Technology

-Director, Hospital Management Div.  
Ministry of Health and Social Affairs

-Director, Korea Gerontology Center

-Director, Hangang Sacred Heart Hospital

-Director, Kangdong Sacred Heart Hospital

Japanese side

-Team Leader of the Japanese experts

-Coordinator

-Japanese experts

-Other personnel to be dispatched by JICA

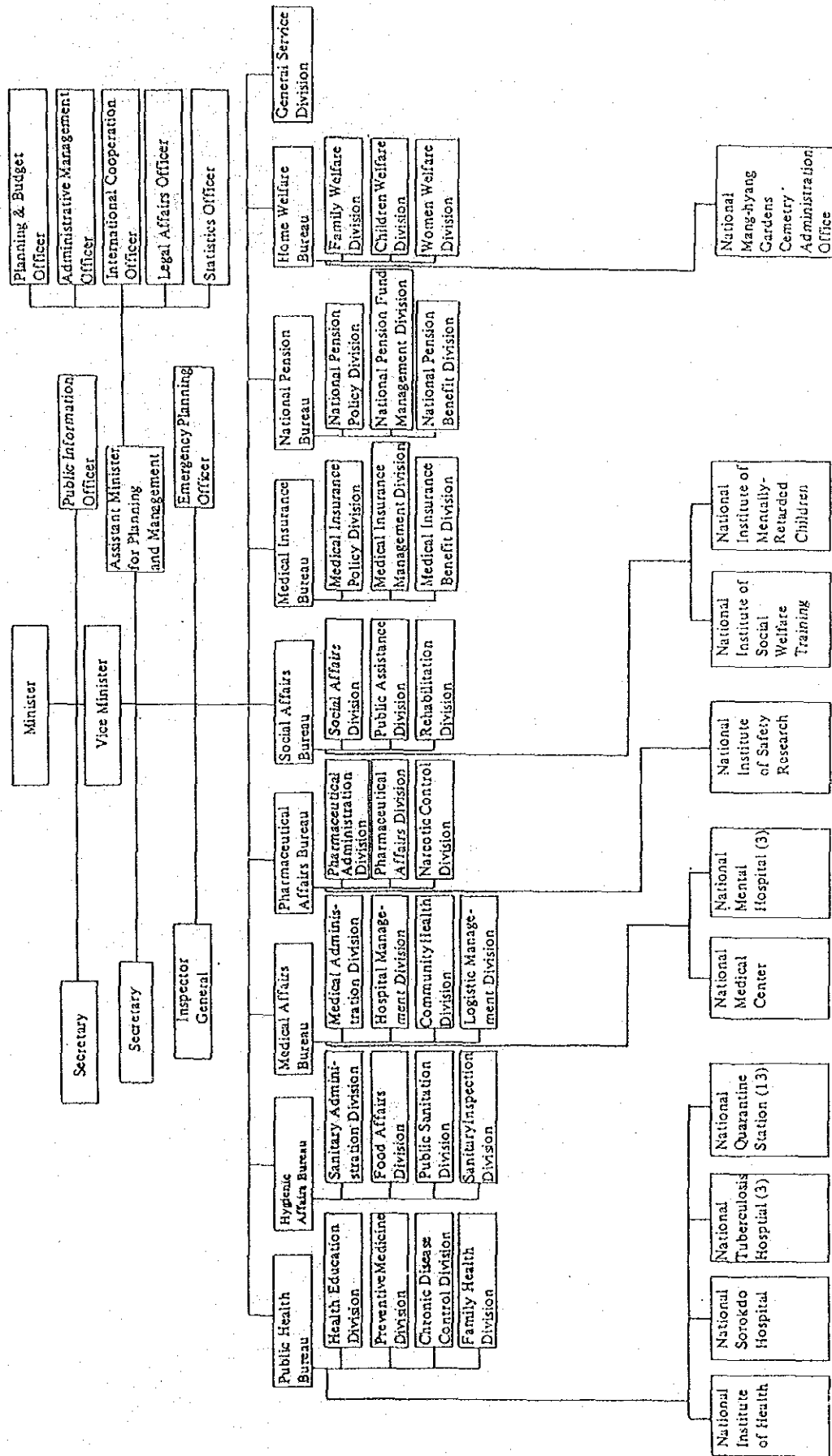
Note: Officials of the Embassy of Japan may attend the Coordinating Committee as observers.

9. Items related to the Project have been confirmed by both sides as follows:

1) On condition that construction of the building for the Project is finished, the Japanese side will send an implementing survey team to finalize the Record of Discussions of the Project so that technical cooperation can be initiated.

2) All member of staffs will be nominated by the time of opening of the Center.

4. 保健社会部機構圖 Organizational Chart of Ministry of Health and Social Affairs



(5) JICA医療協力要請書

# JICA医療協力要請書

1989年

医療法人 聖心医療財団  
韓国老人保健医療センター

(原文：日本語)

# 目 次

第一章 医療協力要請の概要	44
1. 協力の目的	44
2. 協力の機関	45
3. 協力の内容	45
4. 協力期間	46
第二章 協力の背景	46
第三章 韓国老人保健センター設立の趣旨	48
1. 設立目的	48
2. 本センターの所在と特徴	48
3. 組織表	48
4. 人員構成表	48
5. 本センター運営の目標	49
6. 本センター設立によって期待される成果	49
第四章 本センター設立計画	49
1. 建物	49
2. 事業計画	50
3. 財政計画	50
第五章 医療協力の内容	50
1. プロジェクト名	50
2. 協力期間	50
3. 協力方式	50
4. プロジェクトの目標	50
5. 実施機関	51
6. 日本の協力機関（希望）	51
7. 専門家招待及び研修生派遣計画	51
8. 協力要請機材目録	52

## 第一章 医療協力要請の概要

### 1. 目的

生活水準の向上と平均寿命の大幅な延長により長寿社会が到来している。これにより国家社会の老人福祉対策が急速に必要となり、その対策の一環として老化、老人性疾患並びに老人問題に対する科学的・総合的な診療、収容及び研究を遂行する「老人保健医療センター」の設立運営が国家的な要請となっている。

老年期に入ると身体が衰弱して骨幹筋肉系統だけでなく脳神経の衰退、動脈硬化症による心肺機能の低下、免疫能力の弱化による各種の感染に対する抵抗力の減少、代謝内分泌機能も一般成人や小児と異った様相を示している。このような事実が漸次抬頭して来て近來高齢者の健康問題が深刻になった。日本では1986年に65歳以上の老人が既に全人口に10.6%を占め、2013年には21.1%に増加するだろうと推定されており、これに対する医療費は全人口の医療費の34.4%（4兆4千億円）と予想されている。このため老人の健診、治療収容並びに老化現象に関する研究が活潑に施行されている。一方、韓国の高齢人口は現在、65歳以上の老人が全人口の約4.3%に過ぎないが速からず日本の水準に達すると見る場合、韓国も2010年には5,300万人の人口中440万（8.3%）、2015年には500万（9.2%）の高齢人口を抱える事になるだろうと予想される。

このような老人問題の重要性に反して未だ韓国では老人保健医学を専修した人も少なく、病院は殆どない。聖心医療財団は450病床を備えている 漢江聖心病院の隣地に隣接して新たに「老人保健医療センター」を設立し、老人病の高齢期老人に対する保健指導は勿論、老人に頻発する各種疾患の予防、



診断、治療並びに老人問題と関連する諸般の社会的現象と対応についての学術的研究を目標に本計画を樹立し、数年前から東京都老人医療センター、財団法人東京都老人総合研究所、東京都養育院、日本国立栄養研究所と相互に医学上の交流と友好親善をはかって来た。今その目的を達成するためには韓国に「老人保健医療センター」を設立する必要があり、又これを実施するには日本からの本分野の医療技術協力が不可欠の問題となって来た。

## 2. 協力機関

名称：「韓国老人保健医療センター」と称す。

所在：本部：ソウル特別市江永登浦区永登浦洞

漢江聖心病院の隣接敷地400坪

支部：1) 江原道春川市校洞153

春川聖心病院

2) 全羅北道群山市開井洞413

開井病院

## 3. 協力内容

### 1) 建築予定の建物

地下4階、地上10階、延建坪2,640坪

### 2) 建物の用途

地下2, 3, 4階：駐車場、Power Plant

地下1階：核医学科、リクレーション室、浴室、食堂

地上1階：検査室、薬局、會計、医事室

地上2階：外来診療科

地上3階：リハビリリテーション部、手術室、供給室

地上 4 階：健診センター、社会事業科

地上 5、6、7、8 階：入院室（180 病床）

地上 9 階：研究部

地上 10 階：図書室、会議室、教授室

3) 協力人員

専門家招待及び研修生派遣は各々 19 名にし、第五章の専門家招待及び研究生派遣は別表（8 頁）の通りである。

4) 必要機材：別紙の通りである。

4. 協力期間

1989 年から 1994 年迄の 5 個年

1989 年度に幹部医師の教育訓練、情報収集

1989 年度にセンター建物の建築 着工

1990 年度に各種機器、施設の導入、

1990 年度末に 完工、開院

## 第二章 協力の背景

小児が成人の縮小でないように医学的、社会的に成人に年輪を積ねたのを老人とみなしてはならない。老齢期に入るとほぼ 2～3 種の慢性疾患又は身体的技能欠陥を持つようになる。老人は各種の疾病に対する反応が異なり、又治療に対する具体的な反応と結果も異なる。老齢期に関する専門的知識なしに一般患者は勿論、老人に対する保健医療を担当することは大変危険なことである。それゆえに既に老人病専門家が統出されている。

韓国の老人人口は 1989 年末現在、65 歳以上が 196 万人で全人口の 4.6% に相当するが 1990 年末には約 207 万人に、2000 年には 297 万人に、2015

年には 500 万人になって全人口の 9.2% を占めるだろうと韓国人口保健研究院で推算している。一方、韓国人の死亡原因に対して 1985 年度末の統計によると脳血管系疾患による死亡が首位で、胃癌、肺癌、肝癌、子宮癌、乳房癌等、成人病を代表する重要疾患である各種の腫瘍性疾患が急に増加してきた。

人口増加は全般的に国家的問題であるが、特に高齢人口の増加は人間の個人生活だけでなく、社会的にも色々と困難な問題を引起し、2000 年代に入ると老人学問題は医学分野でもっと重要な保健医学の一分野になるだろうと豫測されている。従来の臨床各科のほかにもスポーツ・クリニック、栄養課、社会事業科が重要視され、特に老人学に関する広範囲の研究と教育のために老人病研究施設は必要不可欠となった。

1987 年度から始まる第 6 次国家経済開発 5 個年計画には社会福祉策が強調され国民皆医療保険制の実施を早めに実現しているが、老人福祉策に対する配慮は未だ足りない状態にある。これは日本科学技術会議の 1986 年 5 月 27 日付の「長寿社会対応科学技術推進の基本方策に関する意見」(61 科技会第 66 号)と題した報告書の重要性をさらに痛感させる。

この時点において聖心医療財団に「韓国老人保健医療センター」を設立することは非常に適切な時期に国家民族の要請に即応して、急速に到来している韓国の長寿社会に対応して活力ある社会を保持するために内外の英知を凝集し積極的に老人保健対策開発の推進に先導的役割を果たすことと期待され、この領域に対する日韓医療協力の意義は真に大なるものと思われる。

### 第三章 韓国老人保健医療センター設立の趣旨

#### 1. 設立目的

長寿社会が到来した場合、これを活潑に保持するためには老人が健康であり、気やすく生活しながら社会に何らか貢献して彼等から尊敬されなければならない。心身の健康確保と同時に生活の質的向上をはからって就業、社会参加を積極的に進めながら老人の生理的老化の原因を探究しなければならない。

そこで本財団では韓国での老人学に関する研究、高齢期に於ける保健指導、老人性疾患の予防、診断、治療、リハビリテーションとこれらに対する科学的研究、技術開発並びに専門医療人の育成、教育等の事業を推進するためにこれを設立する次第である。

#### 2. 本センターの所在と特徴

1) 聖心医療財団傘下の5大総合病院中のひとつのソウル特別市永登浦区永登浦洞所在 漢江聖心病院の隣接地に延建坪約2,640坪の独立建物を新築し、地下道で両建物を連結して本センターの重要事業を推進すると同時に、漢江聖心病院と機能的に提携しその効率を向上させる。

2) 春川と群山の支部本センター(本部)と提携し地方的技能を向上させる。

#### 3. 機構表

本センターの機構表は別添の通りである。

#### 4. 人員構成表

本センターの人員構成表は別添の通りである。

#### 5. 本センター運営の目標

本センターは下記の三大役割を遂行することを目標とする。

- 1) 地域社会のため老人保健専門医療機関としての役割
- 2) 老人保健に関する総合的研究機関としての役割
- 3) 老人保健専門医療人の育成、教育研修機関としての役割

#### 6. 本センター設立によって期待される成果

老人保健問題は韓国の国家的重大な課題であるが未だ未開拓分野であり、本センターの設立がこの領域において先導的で中核的な役割を果たして韓国の福祉社会建設に大なる貢献をもたらすことと期待される。

## 第四章 本センター設立計画

### 1. 建 物

ソウル市永登浦区永登浦洞に約400坪の敷地に地下4階、地上10階、延建坪約2,640坪の建物を新築する。

地下2、3、4階：駐車場、Power Plant

地下1階：核医学科、リクリエーション室、浴室、食堂

地上1階：検査室、薬局、會計、医事室

地上2階：外来診療科

地上3階：リハビリテーション部、手術室、供給室

地上4階：健診センター、社會事業科

地上5、6、7、8階：入院室（180病床）

地上9階：研究部

地上10階：図書室、會議室、教授室

## 2. 事業計画

事業計画は別添の通りである。

## 3. 財政計画

本センター設立に要する機材購入費は日貨で約5億720万円と推算され、その中で診療部に3億1千405万円、研究部に1億4千50万円とリハビリテーション部に5千265万円を配分する予定である。

# 第五章 医療協力の内容

## 1. プロジェクト名

「韓国老人保健医療センタープロジェクト」

## 2. 協力期間

1989年(昭和64年)より1994年(昭和69年)まで5年間

## 3. 協力方式

プロジェクト技術協力

## 4. プロジェクトの目標

本プロジェクトは日本からの医療技術協力をもとにし、老人保健専門医療機関としての役割、老人保健に関する総合的研究機関としての役割、老人保健専門医療人の育成、教育研修機関としての役割等を遂行する事を目標とする。

5. 実施機関

医療法人 聖心医療財団 韓国老人保健医療センター

6. 日本の協力機関（希望）

厚生省 国立栄養研究所

東京都老人医療センター

東京都養育院

(財) 東京都老人総合研究所

東京都多摩老人医療センター

7. 専門家招待及び研修生派遣

専門家招待及び研修生派遣は各各19名にし、これを年次別、分野別に区分して実施する。これを図示すれば次の通りである。

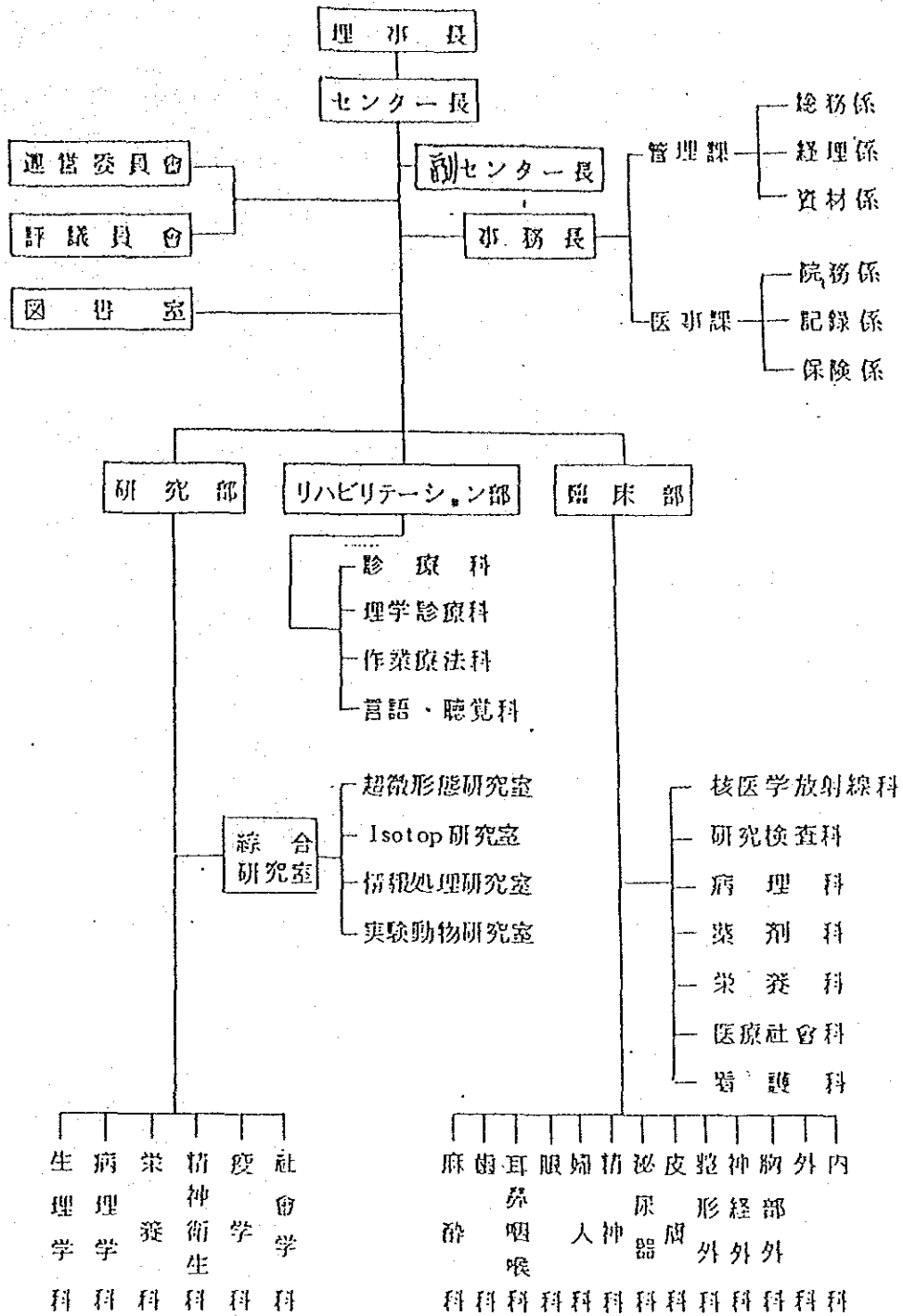
年次	区 分	人数	分 野
1	専門家招請	3	臨床部門1, 研究部門1, リハビリテーション1
	研修生派遣	3	〃 〃 〃
2	専門家招請	4	臨床部門1, 研究部門2, リハビリテーション1
	研修生派遣	4	〃 〃 〃
3	専門家招請	5	臨床部門2, 核医学放射線1, 看護1, 研究1
	研修生派遣	5	〃 〃 〃 〃
4	専門家招請	4	臨床部門2, 病理1, 検査1
	研修生派遣	4	〃 〃 〃
5	専門家招請	3	臨床部門1, 研究部門1, 検査1
	研修生派遣	3	〃 〃 〃
合計	専門家招請	19	
	研修生派遣	19	

8 必要機材目録

必要機材は診療機材目録と研究機材目録に区分し、診療機材を日貸で3億1千405万円、研究機材を1億4千50万円とリハビリテーション機材を5千265万円、総計日貸で5億720万円の目録を作成して別に添付する。



# 機 構 表



## 人 員 構 成 表

Center 長	1		
副 Center 長	1	総計	198
事務 長	1		

庶 務	2	医 事	3
経 理	5	記 録	5
資 材	2	保 険	2
汽 缶	2	函 書	1
電 気	2		

小 計 33

### 臨 床 部

### リハビリテーション部

### 研 究 部

			幹 部 研究員	技 士		
医 師	14	医 師	1	生 理 学	3	3
歯 医	2	技 士	5	病 理 学	3	5
薬 剂 師	4	助 手	6	栄 養 科	5	6
放射線技士	3			精 神 衛 生 科	2	3
病理技士	4			疫 学 科	1	3
医療社会事業員	1			社 会 学 科	1	3
栄 養 士	1			写 真 師	-	1
看 護 婦	50			獣 医 師	-	1
看 護 助 手	30			技 術 工	-	2
小 計	109	小 計	12	小 計	15	29

180 病床 科目別 豫算内譯

1. 事務消耗品費:	帳簿類及び事務消耗品	800,000 Won
2. 雑消耗品費:	厨房汁器類及び食器類 (厨房施設物別途)	6,000,000
	一般消耗品	4,000,000
3. 印刷品費:	処方箋及び診療録類	8,000,000
4. 医療消耗品費:	X-ray film類、医療用 ガス類、一般医療消耗品	44,000,000
5. 一般備品費:	テーブル類、椅子類、キ、ビネ、ト類、 型類、試薬台、調剤台、薬、リネン類、 作業台、受付台、film保管箱、診療録冊 保管台、マットレス類、股台類	90,000,000
6. 試薬費:	検査室試薬	9,000,000
	放射線科試薬	1,500,000
7. 医薬品費:	注射薬及び医薬品類	43,000,000
	合計	W 206,300,000

8. 人 件 費

行政管理	センター長	1	3,088,000
	副センター長	1	2,320,000
	事務長	1	881,000
	庶務	2	857,000
	経理	5	1,900,400
	資材	2	857,000
	汽缶	2	796,100
	電機	2	796,100
	一般職	6	1,988,400
	医事	3	1,984,500
	記録	5	3,745,100
	保険	2	820,000
	図管	1	410,000
	小計	33	20,443,600
臨床部	医師	14	26,264,000
	歯医	2	3,280,000
	放射線士	4	1,545,000
	病理士	3	1,150,000
	薬剤士	4	2,100,000
	社会事業	1	435,000
	栄養士	1	418,000
	看護婦	50	26,139,000
	看護助手	30	9,300,000
	小計	109	70,631,000

リハビリテーション部医師	1	1,876,000
技 士	4	1,545,000
助 手	6	1,968,000
小 計		5,389,000

研 究 部	研 究 費	技 士
生 理 学	3 2,475,000	3 1,320,000
病 理 学	3 2,475,000	5 2,200,000
栄 養 学	5 3,300,000	6 2,640,000
精神衛生学	2 1,650,000	3 1,320,000
疫 学	1 825,000	3 1,320,000
社 会 学 科	1 825,000	3 1,320,000
写 真 師		1 330,000
獣 医 師		1 660,000
技 術 工		2 880,000
小 計	15 11,550,000	27 10,670,000
合 計	198	118,683,600

臨 床 部 機 器 目 録  
EQUIPMENT LIST FOR CLINICAL DEPARTMENTS  
\*\*\*\*\*

1.	高压蒸気滅菌消毒機 Autoclave	1 set	¥ 9,000,000
2.	ポリグラフ Polygraph	1 set	¥ 8,500,000
<hr/>			
3.	トレッドミル Treadmil with Ergometer	1 set	¥ 5,800,000
4.	酸化エチレンガス滅菌消毒機 E.O. Gas Sterilizer	1 set	¥ 3,750,000
5.	X線透視撮影機 X-ray Radio?Fluoro 800MA, 150KVP	1 set	¥ 9,000,000
6.	X線フィルム自動現像器 Film Processor	1 set	¥ 1,500,000
7.	X線移動撮影機 Mobile X-ray	1 set	¥ 1,500,000
8.	X線遠隔調整撮影機 X-ray Remote Control, 500MA, 150KVP	1 set	¥15,000,000
9.	超音波スキャナー Ultrasound Scanner	1 set	¥10,500,000
10.	全身用CTスキャナー Whole Body CT Scanner	1 set	¥34,500,000
11.	心電図分析器 EKG Analyzer	1 set	¥ 3,000,000
12.	脳波検査機 Electro-Encephalograph	1 set	¥ 5,500,000
13.	自動デジタル体重計 Automatic Digital Weight Scale	1 set	¥ 1,500,000

	蒸溜水機		
14.	Water Still	* 1 set	¥ 1,500,000
	手術用手袋散粉器		
15.	Glove Conditioner	1 set	¥ 2,250,000
	心臓拍出量コンピューター		
16.	Cardiac Output Computer	1 set	¥ 1,500,000
	ホルター心電図監視装置		
17.	Holter Monitor	1 set	¥ 8,000,000
	肺機能検査機		
18.	Pulmonary Function Test	1 set	¥ 5,250,000
	刺戟検査機		
19.	Stress Test System	1 set	¥ 4,500,000
	エコー心電図計		
20.	Echocardiograph	1 set	¥22,500,000
	カムマカウンター		
21.	Gamma Counter	1 set	¥ 4,500,000
	血球数計算機		
22.	Blood Cell Counter	1 set	¥10,000,000
	自動血液化学分析機		
23.	Auto Chemistry Analyzer	1 set	¥15,000,000
	分光光度計		
24.	Spectrophotometer	1 set	¥ 1,050,000
	超音波洗浄器		
25.	Ultrasonic Cleaner	1 set	¥ 1,500,000
	血液ガス分析器		
26.	Blood Gas Analyzer	1 set	¥ 6,000,000
	心電図計		
27.	Electrocardiograph	1 set	¥ 1,200,000
	呼吸器		
28.	Respirator	2 set	¥ 5,000,000

29.	自動血圧計 Automatic Sphygmomanometer	1 set	¥ 750,000
30.	患者監視中央装置 Central Monitor 1 set with Bedside Monitor	1 set	¥25,000,000
		8 sets	
31.	血圧監視装置 Blood Pressure Monitor	1 set	¥ 1,050,000
32.	換気器 Ventilator	1 set	¥ 4,500,000
33.	関節鏡 Arthroscope	1 set	¥ 4,500,000
34.	電気ショック治療機 E. S. T.	1 set	¥ 2,250,000
35.	血流計 Blood Flow Meter	1 set	¥ 2,250,000
36.	麻酔機 Anesthesia Machine	2 set	¥ 4,500,000
37.	手術台 Operating Table	2 set	¥ 3,000,000
38.	手術無影燈 Operating Lamp	2 set	¥ 1,500,000
39.	手術顕微鏡 Operating Microscope	1 set	¥ 4,500,000
40.	周辺視野計 Perimeter	1 set	¥ 750,000
41.	眼底カメラ Fundus Camera	1 set	¥ 2,250,000
42.	眼科注入ノ吸引システム Infusion/Aspiration System	1 set	¥ 4,200,000
43.	ウロダイナミック システム Urodynamic System	1 set	¥ 4,500,000



44.	レーザー治療機 Argon/Dye YAG Laser	1 set	¥18,500,000
45.	紫外線光線治療器 UVA/UVB Phototherapy	1 set	¥ 3,750,000
46.	歯科治療台、椅子 Unit and Chair of Dentistry	1 set	¥ 900,000
47.	歯科回転式 X線撮影機 Panoramic X-ray Unit	1 set	¥ 1,250,000
48.	胃ハイバスコープ Gastrofiberscope	1 set	¥ 1,250,000
49.	気管ハイバスコープ Bronchofiberscope	1 set	¥ 2,200,000
50.	十二指腸ハイバスコープ Duodenofiberscope	1 set	¥ 1,100,000
51.	大腸ハイバスコープ Colonofiberscope	1 set	¥ 1,050,000
52.	耳鼻咽喉科治療台、椅子 Unit and Chair of E.N.T.	1 set	¥ 750,000
53.	眼科治療台、椅子 Unit and Chair of Ophthalmology	1 set	¥ 750,000
54.	細げき燈 Slit Lamp	1 set	¥ 750,000
55.	泌尿器科機具 Urological Instruments	1 set	¥ 3,000,000
56.	手術機具 Operating Instruments	1 lot	¥10,500,000
57.	機具類 Instruments	1 set	¥ 4,000,000
	小 計 Subtotal		¥314,050,000

研 究 部 機 器 目 録  
EQUIPMENT LIST FOR RESEARCH DEPARTMENTS  
=====

アミノ酸分析機			
1. Amino-acid Analyzer	1 set		¥22,000,000
超遠心分離器			
2. Ultra-centrifuge	1 set		¥10,000,000
全自動電気泳動装置			
3. Automatic Electrophoresis	1 set		¥ 9,500,000
自記分光光度計			
4. Automatic Spectrophotometer	1 set		¥ 7,000,000
サウント スペクトログラフ			
5. Sound Spectrograph	1 set		¥ 3,800,000
薄層ラジオクロマトグラフ			
6. Thin Radio-Chromatograph	1 set		¥ 6,000,000
原子吸光分光光度計			
7. Atomic Absorption/Flame Emission Spectrophotometer	1 set		¥14,200,000
生物顕微鏡			
8. Biological Microscope	1 set		¥ 1,400,000
透過型微分干渉顕微鏡			
9. Transmission Interfer Microscope	1 set		¥ 1,400,000
炭酸ガス培養装置			
10. CO2 Incubator	1 set		¥ 3,000,000
純水製造装置			
11. Water Stilling Apparatus	1 set		¥ 2,500,000
呼吸スパイロメーター			
12. Respiro-spirometer	1 set		¥ 9,000,000

	二次元マイクロ電気泳動装置		
13.	2-Dimensional Micro-electrophoresis	1 set	¥10,000,000
	人体代謝測定装置		
14.	Metabolic Measurement Cart	1 set	¥10,000,000
	15N - 計数器		
15.	15N - Counter	1 set	¥ 2,500,000
	13C - 計数器		
16.	13C - Counter	1 set	¥12,000,000
	ウルトラ デープ冷凍器		
17.	Ultra-Deep Freezer	1 set	¥ 1,500,000
	分光光度計		
18.	UV/VIS Spectrophotometer	1 set	¥ 6,000,000
	微量高速遠心分離機		
19.	High Speed Microcentrifuge	1 set	¥ 2,500,000
	低温実験庫		
20.	Hypothermic Experimental Unit	1 set	¥ 4,500,000
	自動血小板計数器		
21.	Automatic Hematology Analyzer	1 set	¥ 6,000,000
	恒照恒温器		
22.	Dubnoff Shaking Incubator	1 set	¥ 1,500,000
	角型氷製造機		
23.	Cubed Ice Maker	1 set	¥ 1,200,000
	小 計 Subtotal		¥140,500,000

リハビリテーション部 機器 目録  
EQUIPMENT LIST FOR REHABILITATION DEPT

電動起立器			
1. Electrical Tilting Table	1 set	¥	600,000
歩行訓練器			
2. Ambulator	1 set	¥	10,000,000
自転車訓練器			
3. Cyclator	1 set	¥	7,000,000
運動検査機器			
4. Exercise Test System	1 set	¥	5,250,000
連続性受動運動器			
5. Continuous Passive Motion Machine	1 set	¥	1,500,000
運動分析器			
6. Motion Analyser	1 set	¥	1,050,000
移動性浴槽			
7. Portable Bath	1 set	¥	5,000,000
生物遠隔測定機具			
8. Bio-telemetry System	1 set	¥	5,250,000
心電図分析器			
9. ECG Analyser	1 set	¥	3,000,000
ハーバト タンク			
10. Hubbard Tank	1 set	¥	14,000,000
	小計	SUBTOTAL	¥52,650,000
	合計	GRAND TOTAL	¥507,200,000

## (6) 聖心医療財団の沿革

1971. 12. 28 : 当時カトリック医科大学の学長と医務院長であった尹徳善理事長は永登浦地区の隣りに住民の診療のために漢江聖心病院(250床)を開院した。

開院当時は中央大学校医科大学付属病院として診療と医学教育に努めた。

1972. 11. 1 : J I C A の支援で開設された臨床栄養研究センターは韓国で初めての栄養研究センターで、その間全国民の栄養調査等多くの研究業績を残し、現在は翰林大学校の附設韓国栄養研究所となっている。

1974. 4. 22 : 医療法人聖心医療財団の前身である聖心中央維持財団が財団法人として認可され中央大学校とは別の財団となった。

1975. 2. 20 : 聖心慈善病院(100床)が漢江聖心病院内に開院され、永登浦区内の多くの貧しい患者に無料診療と入院・手術等に当たってきたが、1982年7月生活保護法により医療保護は政府が受持つようになり閉院した。

1977. 1. 1 : ソウル市東大門区にある東山聖心病院(200床)を同財団にて引き受け運営することになった。

1978. 1. 18 : 漢江聖心病院の入院収容能力の不足を補うために200床の新館を増築した。同病院は450床の病床と機器を整えた総合病院となった。

1980. 1. 11 : ソウル永登浦区大林洞に最新機器をそなえた450床の江南聖心病院が開院した。

1980. 10. 30 : J I C A の支援により設立された栄養研究所の発展に伴い、第1回日韓臨栄養シンポジウムがソウルで開催された。韓国と日本の栄養関係の学者、研究者および栄養士等が一堂に集まり、学術研究発表があり学術情報の交流に貢献した。その後も毎年、日韓交代で場所を換えながら開催しており、本年の第10回シンポジウムは日本の高松市で開催される予定である。

1981. 12. 9 : ソウル市の冠岳区の新林洞の都市スラムである山麓に住んでいる貧困者の社会的扶助、生活の自立と診療のために新林総合福祉館を開館した。

1982. 1. 8 : 翰林大学に医科大学の設立が文教部より認可された。

1982. 3. 1 : 260名の新入学生が選抜され翰林大学の第1回入学式が挙行され、現在は3,160名が在学中である。

1982. 12. 30 : 春川市の公立春川看護専門大学が同財団に編入され、1989年には春川専門大学に改編され看護科等の他に一般行政科等の学科が追加され、現在の学生は840名である。

1984. 12. 10 : 翰林大学校のキャンパスの隣りに400床の春川聖心病院が開院され、翰林医科大学生と春川専門大学の看護学生の臨床実習病院として、また専門修練病院としての役割を果たしている。

また本病院はもと650病床の病院として建設されたが、現在250名の患者が入る予定の付属建物は1991年の始めまで春川専門大学が校舎として使用するが、1991年からは本来の目的通りその付属建物を病床として拡張する一方、老人保健医療センターの春川支部病院に使う予定である。

1986. 3. 1 : ソウル市の漢江聖心病院の隣りにあった臨床栄養研究所を翰林大学に移し、同大学付設韓国栄養研究所として再発足した。

1986. 10. 22 : 750床の江東聖心病院がソウル江東区の吉洞に開院した。現在第3次医療機関として診療をしている。

1989. 2. 28 : 春川市に江原道障害者福祉館を開館し、障害者の職業輔導、再活教育、障害者相談等の福祉増進のためにつくしている。

1989. 3. 1 : 翰林大学は創立7年目に大学から総合大学 (University) に昇格した。医科大学を始めとし4大学 (21学科) および10付設研究所を有する大学校に発展した。

## 7. 翰林大学校の沿革と概要

### ア. 沿革

1982. 1. 8 学校法人一松学園翰林大学設置認可  
○ 英語英文学科、社会事業学科、生物学科、医予科新設  
(合計 4 学科、学生定員 200 名)
3. 1 初代学長金鐸一博子就任
3. 8 第 1 回入学式挙行  
○ 学生生活研究所、翰林学報社、視聴覚教育研究所、電子計算研究所設置  
○ 史学科、電子計算学科新設 (合計 6 学科 学生定員 280 名)
1983. ○ 外国語研究所設置  
○ 経営学科、数学科、化学科、体育学科新設  
(合計 10 学科、学生定員 420 名)
1984. 4. 1 人文社会科学部、自然科学部、医学部、教養教育部設置
9. 1 翰林学舎 (寄宿舎) 竣工
12. 10 附属春川聖心病院開院  
○ 亜細亜文化研究所、社会医学研究所、博物館、中央実験館設置  
○ 国語国文学科、中国学科、経済学科、物理学科新設  
(合計 14 学科、学生定員 560 名)
1985. 3. 29 Canada Alberta 大学医学部と姉妹関係締結
11. 4 西独 Bohn 大学校耳鼻咽喉教室と姉妹関係締結
12. 4 Canada Calgary 大学校医科大学と姉妹関係締結  
○ 翰林教育研究所設置 (視聴覚教育研究所解体) 理念教育研究所、泰東古典  
研究所設置  
○ 統計学科新設 (合計 115 学科、学生定員 600 名)
1986. 1. 11 中央館、医学館、図書館竣工
2. 20 第 1 回 学位授与式挙行 (61 名卒業)
3. 1 第 2 代学長玄勝鍾博士就任  
韓国當養研究所設置
7. 31 動物飼育舎、学生会館竣工  
○ 遺伝工学科、食品營養学科新設  
(合計 17 学科、学生定員 690 名)

1987.           ○ 哲学科、社会学科、法学科新設  
                  ( 合計 20 学科、学生定員 810 名 )
- 大学院修士課程、英語英文学科、史学科、化学科、生物学科、医学科新設  
                  ( 合計 5 学科、学生定員 60 名 )
1988. 10. 1    江原道障害者総合福祉館受託運営
11. 10    綜合大学校昇格認可  
                  人文大学、社会科学大学、自然科学大学、医科大学改編
- 自然科学研究所、医学教育研究所、翰林經濟研究所設置  
                  ( 人間科学研究所、臨床教育研究所廃止 )
- 政治外交学科新設  
                  中国学科、經營学科、教学科、物理学科、化学科 各々 10 名増員  
                  ( 合計 21 学科、学生定員 900 名 )
- 大学院修士課程 国語国文学科、經濟学科、電子計算学科新設  
                  ( 合計 8 学科、学生定員 96 名 )
1989. 3. 1    翰林大学校 校名変更  
                  初代総長玄勝鍾博士就任
- 保健診療所、社会調査研究所、企画室設置

#### 4. 概 況

翰林大学校は 1982 年 3 月、4 学科、学生定員 200 名をもって開校した。  
今年の 3 月綜合大学校としてその体制を改編した。

翰林大学校には

人文大学：国語国文学科、英語英文学科、中国学科、哲学科、史学科（5 学科 設置）

社会科学大学：社会学科、經濟学科、經營学科、社会事業学科、法学科、政治外交学科  
                  （6 学科 設置）

自然科学大学：数学科、物理学科、化学科、生物学科、統計学科、電子計算学科、遺伝計  
                  算学科、遺伝工学科、食品營養学科、体育学科（9 学科 設置）

医科大学：医予科、医学科（2 学科 設置）

総 計     4 単科大学に 22 学科を設置している。

附属機関としては図書館、博物館、中央実験館等 7 機関を維持し、附設研究所は韓国營  
養研究所、アジア文化研究所等 14 研究所を保有している。

1989 年 6 月 30 日現在の教授数は総計 365 名（その中に臨床分野専任教員 221 名  
を含む）でこの教授数を職位別に区分すれば教授 71 名（38 名）、副教授 76 名（44 名）  
助教授 128 名（76 名）、専任講師 43 名（35 名）、研究客員教員 47 名（28 名）等



である。

学生数は在學生数 2,462 名、休學生数 804 (徴兵のため)、在籍生数 3,266 名で事務職員は 158 名である。

教授確保率においては国内で最上位を占めており、現在教授一人当り学生数は 6.7 名で(臨床教授除外 17 名)韓国内では最高水準である。

在學生の 30% 程度の 720 名は冷・暖房、温水シャワー、洗濯施設、ヘルスクラブ、休憩室、体育器具、テニスコート等を備えた近代的な寄宿舎生活を営んでいる。

学生全体の 30% 程度が奨学金を受けながら勉強している。特に抜群の成績で卒業し一定水準以上の TOEFL 成績を得れば国内外で修士、または博士の学位を取るまで学資金一切を支給する制度があり、現在まで卒業生 4 名がこの奨学金を受けて米国で修学している。

また学術の国外交流も活発に実施し現在 Canada Alberta 大学、Calgary 医学大学、ドイツの Bohn 大学等と姉妹関係を結び教授の交換または研修を進行している。

翰林大学校を經營する財団は学校法人一松学園(理事長尹徳善博士)で学校法人傘下には 5 カ所の総合病院を維持經營し、春川聖心病院には 400 病床、漢江聖心病院には 450 病床、江南聖心病院には 450 病床、東山聖心病院には 200 病床、江東聖心病院には 750 病床等 2,250 病床を保有しながら、これらの病院で収入する利益の大部分を翰林大学校の維持經營のために使用され、開校以来総投資額は 800 億ウォンに達している。

## 8. 漢江聖心病院の概要

- 病 院 名：翰林大学校漢江聖心病院
- 所 在 地：ソウル市永登浦区永登浦洞94-200
- 設 立 者：理事長 尹 徳善
- 設 立 年 月：1971年12月18日
- 設立運営形態：学校法人
- 病 院 長：李 鍾 注
- 診 療 科 目：19科目
- 病 床 数：450病床
- 敷 地：3,195  $m^2$
- 建 築 面 積：11,564  $m^2$

### 病 院 の 浴 革

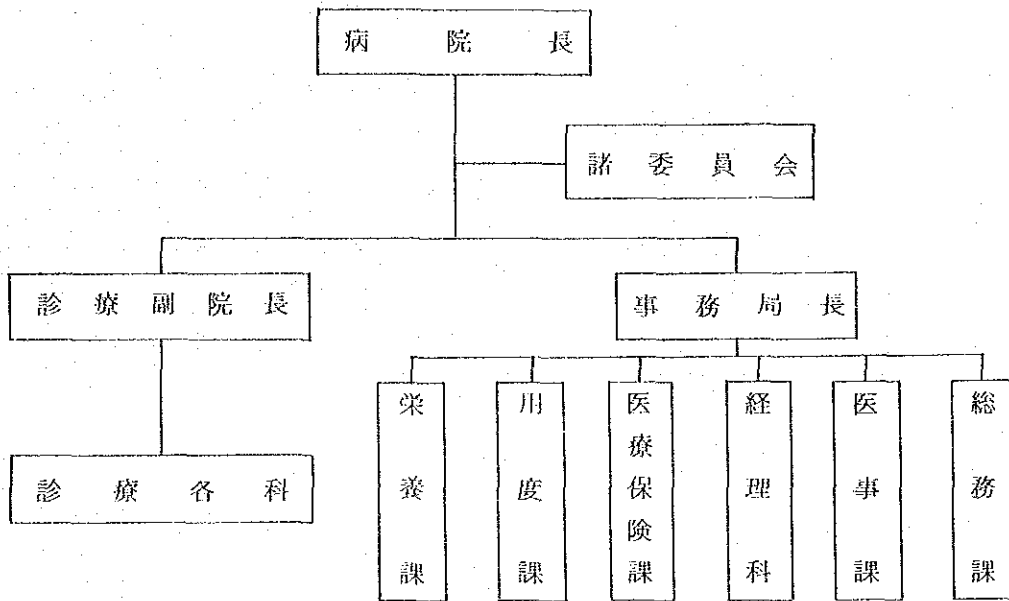
翰林大学校付属漢江聖心病院は、1971年12月18日に開院以来18年間ソウル市民、特に永登浦区、冠岳区、九老区、江西区等漢江以南の地域住達の2、3次医療機関として中核的機能を果たしてきた。

開院初期には漢江以南の唯一の総合病院として、特に工場密接地域である旧永登浦地域の勤労者の産業災害の主動的な治療機関であるだけでなく、京畿道南西地域住民達の2、3次医療機関としての役割を果たしてきた。

1974年4月まで中央大学校医科大学付属病院として運営してきたが、1981年から医療法人聖心医療維持財団の傘下病院となった。

1982年1月学校法人一松学園（翰林大学付属病院）となる。

漢江聖心病院機構圖



病院従事者現況

区分	職別	人数
医師	教授	48
	RESIDENT	79
	INTERN	30
	一般医	2
	歯医	5
看護	職	223
業務	職	15
医療	技士	55
事務	職	53
技術	職	23
雇	傭職	78
	計	611

患 者 現 況

1988年度

科 別	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数
内 科	180	59
外 科	26	73
形 成 外 科	15	19
整 形 外 科	63	105
神 經 外 科	19	57
産 婦 人 科	49	18
小 児 科	72	26
眼 科	25	65
耳 鼻 咽 喉 科	62	8
皮 膚 科	30	1
神 經 精 神 科	37	31
齒 科	36	6
泌 尿 器 科	20	12
物 理 治 療 室	20	—
救 急 室	32	—
新 生 児 室	—	4
計	688	424

科別65才以上の患者比率

科 別	区 分	88年度患者比率	89年度上半期患者比率	%
内 科	入 院	20 %	24 %	+4
	外 来	10	12	+2
一 般 外 科	入 院	8	8	
	外 来	6	6	
形 成 外 科	入 院	1	2	+1
	外 来	0	0	
胸 部 外 科	入 院	16	0	-16
	外 来	6	5	-1
神 経 外 科	入 院	10	10	
	外 来	5	6	+1
整 形 外 科	入 院	9	9	
	外 来	5	6	+1
産 婦 人 科	入 院	0	0	
	外 来	1	1	
小 児 科	入 院	0	0	
	外 来	0	0	
眼 科	入 院	18	17	-1
	外 来	13	12	
耳 鼻 咽 喉 科	入 院	1	0	-1
	外 来	2	2	
皮 膚 科	入 院	7	12	+5
	外 来	5	5	
神 経 精 神 科	入 院	8	5	-3
	外 来	4	5	+1
泌 尿 器 科	入 院	12	14	+2
	外 来	8	8	
菌 科	入 院	4	3	-1
	外 来	3	4	+1
救 急 室	入 院	0	0	
	外 来	7	8	+1
総 計 比 率	入 院	平均 8 %	平均 9 %	+1
	外 来	" 6 %	平均 5 %	

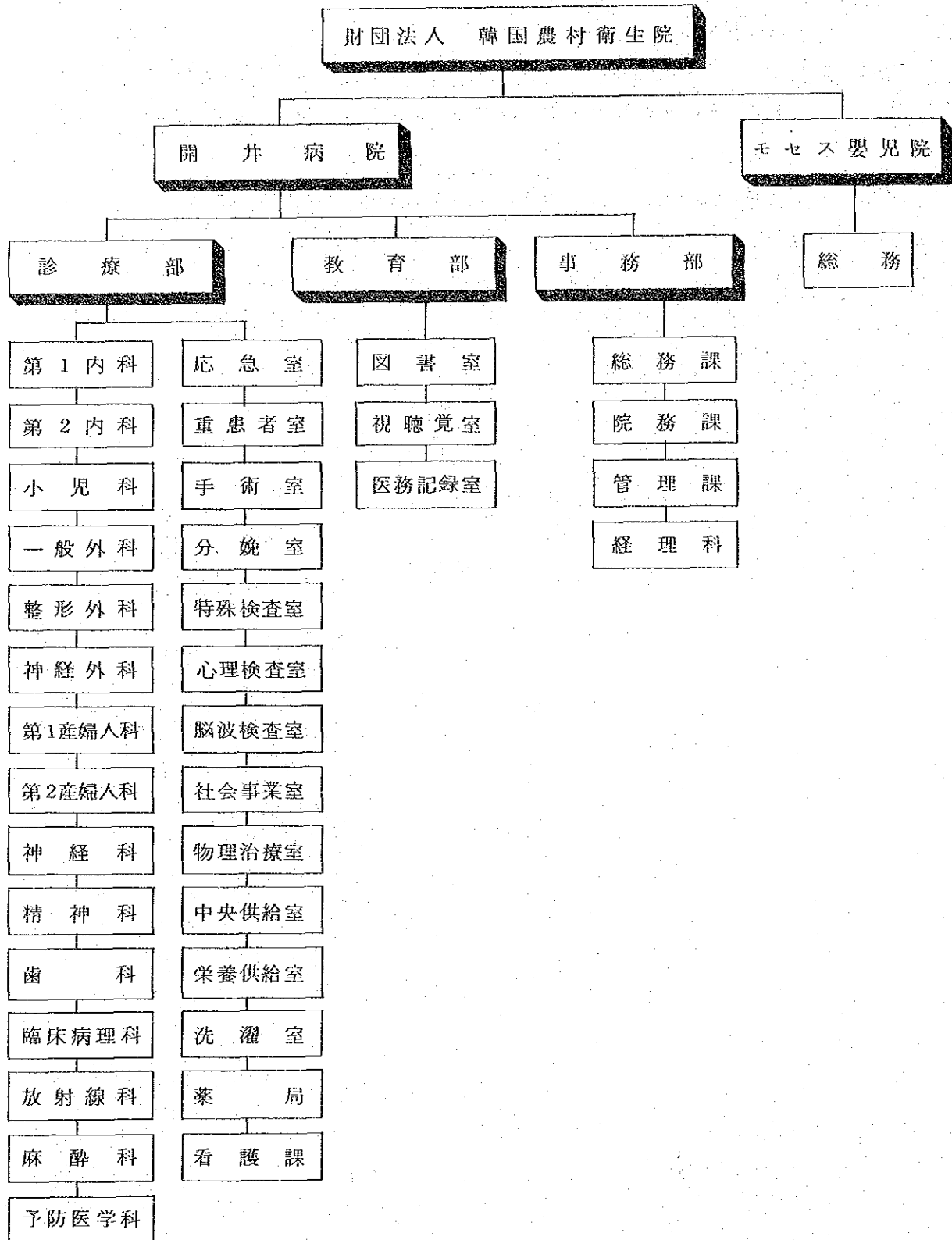
## 9. 開井病院（群山）の概要

### ア. 沿革

- 1935. 4 沃溝郡開井所在 熊本農場（農場主：熊本利平）に慈恵診療所を開設、故李永春博士が所長に赴任し小作人に対し無料診療開始
- 1939. 10 熊本農場の禾湖支場と地境支場に診療所を増設し無料診療実施
- 1941. 4 故・金聲煥博士開井慈恵診療所に赴任
- 1942. 10 金庚湜博士（現財団理事長）開井慈恵診療所に赴任し地境慈恵診療所を兼務
- 1942. 10 禾湖慈恵診療所に故金聲煥博士が所長に就任
- 1945. 8 終 戦
- 1948. 3 海星（金堤郡）、廣活（金堤郡）、東山（完州郡）に3慈恵診療所を新設運営
- 1948. 4 開井慈恵診療所を綜合病院格「開井中央病院」に昇格させ傘下の診療所を支援
- 1948. 7 「農村衛生研究所」を設立しその傘下に診療部、研究部、公衆衛生部、教育部等の部署をおき各種事業を展開
- 1948. 9 禾湖慈恵診療所を綜合病院「禾湖中央病院」に昇格させ一部診療所を支援
- 1949. 1 青蝦（金堤郡）に慈恵診療所を設置運営
- 1950. 6 韓国動乱
- 1951. 6 於山（金堤郡）、八峰（益山郡）に慈恵診療所を新設運営
- 1951. 7 「農村衛生研究所」傘下に開井看護技術学校（現開井看護専門大学）を設立、看護婦養成
- 1951. 12 臨陂（沃溝郡）に慈恵診療所を新設運営
- 1952. 2 群山市内に歯科診療所を新設
- 1958. 5 財団傘下に「一心嬰兒院」（現モセス嬰兒院）を設立運営
- 1959. 1 財源不足と医師確保難に依り諸慈恵診療所閉鎖
- 1961. 5 財団傘下に「開井脳病院」を設立
- 1970. 8 シーグレイブ記念財団の支援により「開井中央病院」を閉鎖して、建物を新築し「シーグレイブ記念病院」として法人分離運営
- 1972. 10 「財団法人 農村衛生院」の法人名称を「財団法人 韓国農村衛生院」に変更
- 1973. 10 「沃溝青十字医療保険組合」を新設し1977.7政府に移管するまで運営
- 1974. 2 財団傘下の「開井看護学校」を法人分離  
（現開井看護専門大学）

1974. 12 「開井脳病院」を「開井神経精神病院」に名称変更
1980. 11 財団創立者 李永春博士永眠  
「国民勲章 無窺花章」追叙
1984. 3 法人を分離運営中であつた「シーグレイブ記念病院」を財団法人韓国農村衛生院が吸収して「開井神経精神病院」と統合し、現存「開井病院」に名称を改称し運営
1984. 10 金庚湜病院長が財団理事長に、崔春鎬副院長が病院長に就任

4. 機構、組織





ウ. 職員現況

開井病院

職 種 別	職員数	備 考
医 師	21 名	
看 護 士	48	
看 護 助 務 士	38	
病 棟 員	10	
医 療 技 士	11	
医 療 補 助 士	10	
薬 師	2	
臨 床 心 理 士	1	
社 会 事 業 士	1	
栄 養 士	1	
事 務 員	24	
技 能 士	13	
其 他	19	
合 計	199 名	

モセス嬰兒院

職 種 別	職員数	備 考
保 母	14 名	
看 護 助 務 士	1	
社 会 事 業 師	1	
事 務 員	2	
其 他	2	
合 計	20 名	

エ 施設現況

<敷地> 総4,512坪(構内に限る)

<建物>

建物名称	棟数	延建坪	備考
本館	1棟	1,181.7坪	日本の坪面積と同一
精神科病棟	1＃	386.6＃	
嬰兒院	1＃	209.0＃	
職員寄宿舍	3＃	538.6＃	
医師舎宅	10＃	239.2＃	
其他附属建物	7＃	212.9＃	
合計	23＃	2,768.0＃	

<収容能力>

(7) 患者病床数

病棟別	病床数	入院患者数	病床利用率	備考
一般科病棟	120病床	118名	98.3%	一般病患者
精神科病棟	110＃	113＃	102.7＃	精神病患者
合計	230＃	231＃	100.4＃	

(8) 嬰兒保育児数

棟別	保育能力	保育児数	保育率	備考
嬰兒院	80名	66名	82.5%	

オ. 事業計画と推進実績

<患者診療事業>

(ア) 入院患者診療人員

単位：名（延人員）

内訳	1989年度			1988年度
	年間計画	上半期実績	対比	実績
一般科患者	35,120名	18,165名	51.7%	34,512名
精神科患者	41,980名	18,721名	44.6%	41,503名
合計	77,100名	36,886名	47.8%	76,015名

(イ) 外来患者診療人員

単位：名（延人員）

内訳	1989年度			1988年度
	年間計画	上半期実績	対比	実績
一般科患者	55,650名	34,774名	62.5%	53,144名
精神科患者	13,660名	6,946名	50.8%	13,598名
合計	69,310名	41,720名	60.2%	66,742名

<幼児保育事業>

単位：名（延人員）

内訳	1989年度			1988年度
	年間計画	上半期実績	対比	実績
保育児数	29,200名	12,775名	43.8%	25,780名

カ. 予算規模

<診療事業>

単位：千won

歳 入			歳 出		
項 目	金 額	比 率	項 目	金 額	比 率
診療収入	2,932,077	92.2%	診療事業費	2,724,085	85.6%
期間外収入	1,500	0.0 #	教育事業費	34,200	1.1 #
借入金	247,500	7.8 #	施設費	127,500	4.0 #
			期間外費	261,800	8.2 #
			予備費	33,492	1.1 #
合 計	3,181,077	100.0 #	合 計	3,181,077	100.0 #

<嬰兒保育事業>

単位：千won

歳 入			歳 出		
項 目	金 額	比 率	項 目	金 額	比 率
補助金	1,122,664	84.5%	養育費	48,934	36.8%
財団法入	8,000	6.0 #	事務費	73,033	54.9 #
其他収入	12,650	9.5 #	管理費	5,500	4.1 #
			施設費	2,000	1.5 #
			予備費	3,445	2.7 #
合 計	1,329,124	100.0 #	合 計	1,329,124	100.0 #

キ. 隣近地域の老人分布

<病院隣近地域の人口分布>

(ア) 住民数

地域名	人 口			家 庭 数
	男 子	女 子	計	
群 山 市	49.6 % 106,306	50.4 % 107,815	100.0 % 214,121	家口 41,115
沃 溝 郡	49.9 # 44,985	50.1 # 45,248	100.0 # 90,233	# 20,598
合 計	49.7 # 151,291	50.3 # 153,063	100.0 # 304,354	# 61,713

(イ) 老人分布

地域名	年令別 人 口	60才 以 下	60 才 以 上			
			60~69	70~79	80以上	小 計
群 山 市	100.0 % 214,121	93.8 % 200,905	3.9% 8,320	1.8% 3,882	0.5% 1,014	6.2% 13,216
沃 溝 郡	100.0 # 90,233	87.9 # 79,299	7.4 # 6,650	3.6 # 3,277	1.1 # 1,007	12.1 # 10,934
合 計	100.0 # 304,354	92.1 # 280,204	4.9 # 14,970	2.3 # 7,159	0.7 # 2,021	7.9 # 24,150

<老人の傷病別分布>

傷病別 内訳	合 計	正 常	循環器 疾 患	高血圧 疾 患	糖 尿 疾 患	呼吸器 疾 患	肝 臓 疾 患	関節炎 疾 患
検 診 数	775	555	4	56	46	23	7	84
比 率	100.0%	71.6	0.5	7.2	5.9	3.0	0.9	10.8

※ 沃溝郡保健所における老人健康診断実施結果資料

<診療施設の現況>

老人病患者が激増しているがこれに対する施設及び装備が皆無の状態





JICA

LIE